

巻頭言

艦船技術会の再発足にあたって

海上幕僚監部技術部長 海将 小倉龍朗

この度、艦船技術会が、有志諸君の肝いりによって、大きく再発足することになったことは、防衛庁ひいては国家のためにきわめて有意義なことであり、喜びにたえない次第であります。

諸先輩のたゆまぬご努力によって、海上自衛隊は海上警備隊発足以来19年にして、今日見るような立派な国産艦艇をもって装備された一大勢力となりましたが、更に四次防を控えて大発展をしようとしています。しかしながら正面勢力に比べて後方面の充足がおくれ、特に人の面で量質の増強についての施策が伴わず、庁内各部門において艦艇造修に携わる諸官は、年々加量する業務に圧迫されつつあるのが実状であると考えます。

私は日頃から庁内において、内局、幕及自衛隊技本及び調本に艦艇技術者を分散していることの不利、非能率を強調し、組織を単純化することを主張してきたところでありますが、ここまで固まった組織を再編することのむずかしさは、容易なことではなく、今日、いささかあきらめの境地に立ちつつある次第です。しかし泣言ばかり言っても始まりません。日々の業務は何とか処理しなければならないのです。

この上は可能な限り艦艇技術者相互の関係を保ち、実行の面で相互に助け合い、業務の能率化を図る外ないでしょう。すなわち、本会の再発足の趣旨である「艦船技術者相互の親ぼくを図る」ということは、きわめて時宜に適したものであると言えます。大いに本会を発展させて、会員相互の親ぼく、交流を図り、同じかまの飯を食う一家の親しみを得ることができれば、艦艇造修業務の能率増進に大きな貢献をするであろうことを信じて疑いません。

又OBを含めることにより、経験豊富な諸先輩との交流の場をもつことになり、ご在任時代と同じような気持で接することができ、われわれは気易く先輩諸士から、長い体験から会得された貴重な「アドバイス」を頂くこともできると思います。おそらくは諸先輩の方々もそのような機会のあることを喜んでおられるものと信じます。

どうか会員となられた方々総員が、本会の発展のため、あらゆる援助、協力を惜しまないという境地に立っていただくようお願い致します。